

今号は、11月に実施した**防災キャンプ**の特集をお届けします。

会長あいさつ

祇園自治会長
新名 典忠(みちただ)



明けましておめでとうございます。
好天に恵られました今年のお正月はいかがお過ごしでしたでしょうか。



三年続きのコロナ禍で殆どの地域行事が中止となり、地域の絆が薄れていくような気がいたします。

そのような中、昨年11月「大規模地震を想定した防災キャンプ」を初めて実施し、百名を超える参加者があり実りある訓練となりました。

昨今、台風災害や、大雪による災害等で電気、ガス、水道、食糧のない状態で生活を度々テレビで目にするといつ、どこで同じ状態にならないとも知れないと強く感じ、隣近所とのご挨拶や訓練に参加することの必要性を感じる一年であり、防災意識のさらなる啓発が必要と思っています。



今回の訓練を経験して多くの防災機関や企業、大学との連携も生まれ、大きな財産となりました。

この防災キャンプ特集をご覧いただき、皆さんそれぞれの防災対策の参考になれば幸いです。

今後も地域の発展のため仲間と協力し、楽しみながら自分たちで出来ることを模索していきたいと思います。

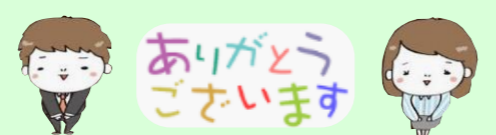
また、防災キャンプに多大なるご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。



今回の防災キャンプにご協力いただきました企業・団体・個人の皆様
ありがとうございました

- ★宮崎市地域安全課
- ★宮崎市中央西地域事務所
- ★宮崎北消防署
- ★中央西地区社会福祉協議会
- ★民生委員・福祉協力員
- ★宮崎空港商事株式会社
- ★日米ケミック株式会社
- ★中央西まちづくり推進委員会
- ★宮崎公立大学 学生ボランティア
- ★猪崎 悦子 様 (ネイチャーゲーム指導者)
- ★矢野 義博 様 (防災士・中央西まちづくり生活安全部会長)
- ★南九州大学 学生ボランティア
- ★横山 哲三 様 (防災士・原町自治会長)
- ★廿日出 勇 様 (星を見る会 代表)

- 〈協賛企業〉
- ・フーデリー霧島店
 - ・UMKテレビ宮崎
 - ・宮崎ケーブルTV



防災キャンプに参加した方々から

女性 K.Tさん

ある日ラジオで大災害に遭われた人に「災害の一日前に戻れるとしたら何をしますか」と問いかけていた。

「地区の防災訓練に参加する、近所の人と挨拶をする」など言っていた。

自分が災害に遭ったらどうしよう、でも何とかなるだろうと漠然と考えていた折、この防災キャンプに参加した。

避難場所の公園では緻密な計画のもと、非常時の大切なノウハウが学べた。これを体験するのとならないのでは大きな差があるな、と感じることばかり。

例えば、停電時のペットボトルの灯、組み立てると頑丈なベッドやトイレ、持ち出しリュックの中身、依然より抜群に美味しい防災食、大学生や子どもたちとのイベントでの交流。私は宿泊には参加できなかったけれど、天体ショーや燻製体験と盛り上がったようだ。

ある男性は、「回覧板で見たけど何か『よだきい』けど黄色いタオルを玄関に掛けてきた。迷うこともあったが勉強になった。防災グッズまでもらった」と喜んでいました。

私も参加してみて防災対策の必要性和重要性を認識した。

小5 女子 R.Tさん

防災キャンプに参加して、テントを張ったり非常食を食べたり、望遠鏡で星座や惑星を見ることができて楽しかったが、今回は訓練であって本当に災害があった時に同じような気持ちでは参加できないと思った。訓練だから楽しく過ごせたのだけど災害が現実起こらないで欲しいと思った。

小5 男子 S.Uさん

防災の事について勉強になりました。防災食も思っていたより美味しかったです。来年も参加したいです。

小2 男子 S.Uさん

非常用のお水(500ml¹ペットボトル)を皆でお鍋に入れて調理するのが大変でした。出来上がった防災食は美味しかったです。いい体験になりました。

小5 男子 Y.Tさん

何かあった時に避難する場所が分かって良かった。みんなとペットボトルランプを作ったり、防災食を食べたり、望遠鏡で星を見たり、楽しかったです。

女性 K.Sさんと娘さん

どの企画も楽しく防災の知識を学べ、親子そろって大満足の2日間でした。娘はコロナ前の事を小さくて覚えていないので、初の外泊に大喜びでした。体験して初めて分かる事も多く、早速車中泊マットを購入しました。

〈小1の娘さんから〉
らいねんは、カレーライスをつくりたいな。

原町自治会会長
横山 哲三様より

去る十一月二十六日土曜日に開催された防災キャンプに参加して感じた事を述べさせていただきます。

先ず防災上重要な事は災害はいつ起こるか判りません。従って防災訓練をキャンプ形式にして夜間の訓練が如何に大事かということに認識していただく大変有効な訓練であったと存じます。

夜間に訓練を行う事は、ともすれば危険を伴い、参加を控える方もあるかと存じます。言うまでもなく、昼と夜では状況が全く違います。

被災時は、電気・ガス・水道などいわゆるライフラインはすべて止まると考えることが妥当と存じます。暗い中での行動がどれだけ大変なものかを実感することが一番の訓練になると存じます。

この中で、子ども達や高齢者に対するワークコーナーもあり、皆が楽しめる訓練であったと思います。

防災キャンプを計画し実施された祇園自治会の皆様に敬意を表します。

想定 大地震発生
2022年(令和4年)
11/26(土) 13:00

逃げる
避難場所
(中鶴街区公園)

地域の絆
安否確認
ひとりひとりが考えてみた

生活する
食事は? 水は? トイレは? ベッドは? 灯は?

祇園自治会災害対策本部設置

①避難受付開始



②高齢者・一人暮らしの見守り隊報告

玄関先に掲げられた「黄色いタオル」をもとに
民生委員や福祉協力員が安否状況を確認して報告



地図上に印
をつけ情報の
共有化を図る



災害必需品の展示



防災講座



ダンボールベッドの
組立体験

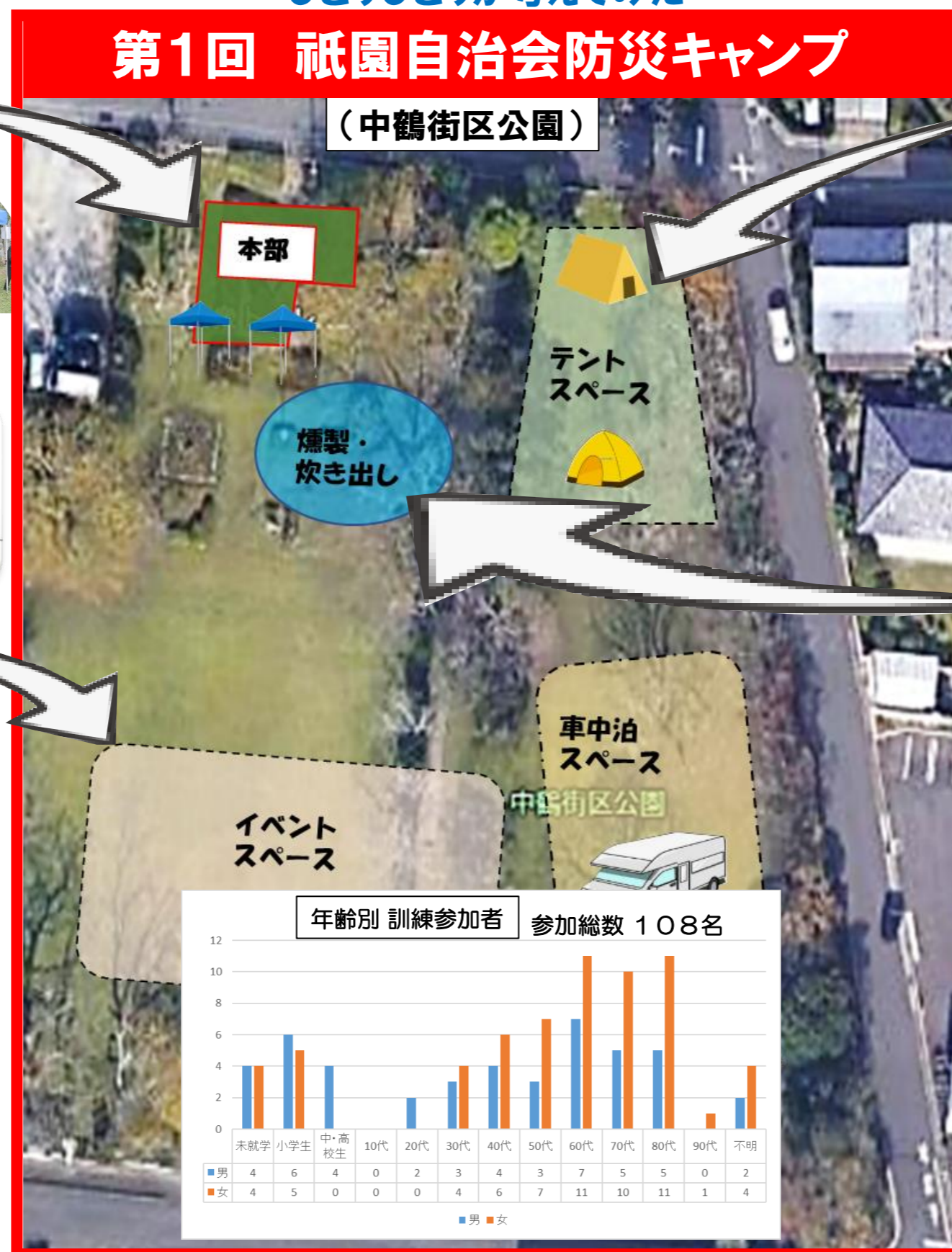


簡易テントの
組立体験

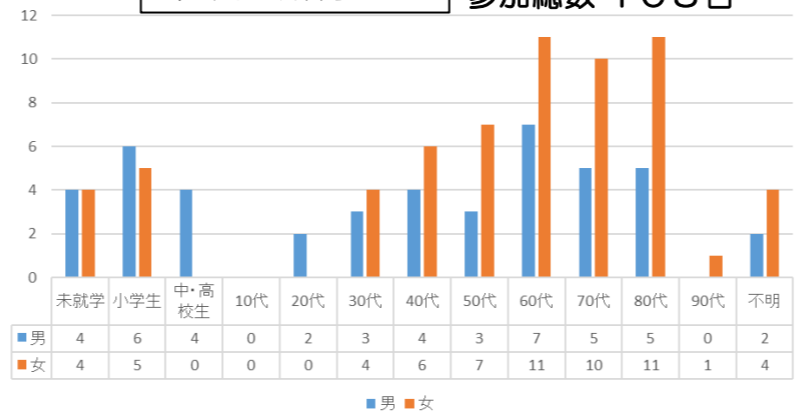


第1回 祇園自治会防災キャンプ

(中鶴街区公園)



年齢別 訓練参加者 参加総数 108名



大小、カラフルなテント村



テントでの防災読み聞かせ



ペットボトルランタン

防災食の準備
試食会



星を見る会

どんぐりやじろべー作り



ネイチャーゲーム体験

給水装置

ソーラー
充電器

一人テント
と
トイレ